

# 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 088

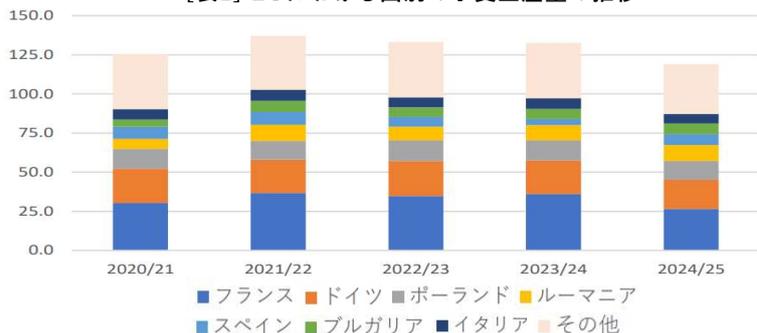
## (2025/26年度 USDA米国農務省 11月14日発表)

待ち望んだUSDA「crop report」は今月ようやく復活。下記品目別概要と別添「需給表」は9月をベースに変動した内容となります。

① 今月号のトピックスは、世界の穀物生産見通しが全体的に3年連続の史上最高数量を記録する状況に大きな変化が見られないことから、今まであまりスポットライトが当たらなかった**EUの国別小麦生産状況と輸出量推移**に焦点を当てたい。EUの年間小麦生産量は約1.3~1.4億トと安定しており**世界最大の生産地域**となっている。下記[表1]は2020-24年までの国別生産量推移であるが、①フランス②ドイツ③ポーランドの**3カ国で概ね全体の5-6割**を占めEUの中核をなしている。24/25年度は秋の降雨による冬小麦作付け減少から仏/独が約2割減産となり全体では**1.2億トまで減少**、一転今年度は**1.4億ト回復**予想だが、近年の気候変動を反映し**EU諸国でも早魃/大雨/早霜等の被害**レポートが目立つ。

② [表2]はEUの2014年以降の小麦輸出量推移であるが、これは年次別の豊凶を反映し**23~38百万ト**の幅で大きく変動している。豊作年の23/24年を見ると全体輸出量は約36百万ト、**輸出先はアフリカ**のモロッコ/アルジェリア/ナイジェリアで各4百万ト前後。**輸出国は仏約11/ルーマニア7/ポーランド5百万ト**と続く。その意味では地中海を挟んだ**EUとアフリカの「小麦経済圏」**が成り立っている。他方、EUは**小麦輸入量も通常5-6百万ト**、2022-24年まではスペイン早魃もありウクライナ産の臨時回廊経由の輸入が約6百万ト増加、合計約1千万ト前後の輸入量となった。この地域の物流は、**大概是1-3万トクラスの船舶**或いは**河川/鉄道輸送が多く海運市況**に与えるインパクトは大きくない。

[表1] EUにおける国別の小麦生産量の推移



[表2] EUの小麦輸出量の推移



資料：EC「EU cereals production (usable), area and yield」「EU trade for cereals」「EU Cereals Balance Sheets」(2024.12.19)

### 1. 世界穀物需要の概要 (大豆を除く)

① 生産量：	2,946百万ト (前年比3.2%)	増↑	、前月比0.5%	増↑
② 消費量：	2,947百万ト (前年比2.3%)	増↑	、前月比0.5%	増↑
③ 貿易量：	527百万ト (前年比5.7%)	増↑	、前月比1.1%	増↑

### 2. 小麦

① 生産量：	829百万ト (前年比3.5%)	増↑	、前月比1.6%	増↑
② 消費量：	819百万ト (前年比1.1%)	増↑	、前月比0.5%	増↑
③ 輸出量：	217百万ト (前年比3.6%)	増↑	、前月比1.2%	増↑
④ 在庫量：	271百万ト (前年比3.8%)	増↑	、前月比2.8%	増↑
⑤ 価格：	<b>\$5.28/Bu</b> (前年\$5.68/Bu / 9月\$5.01/Bu) と9月比 <b>\$0.27</b> 上昇。			
⑥ 概況：	世界の小麦生産量は、EU/ロシア/ARG等で増加し <b>8.3億ト</b> と前年比約 <b>3千万ト</b> 増加する見通しで好調である。消費量は生産量増加までは至らないが8.2億トとこれも好調。輸出量は2.2億ト近くまで迫り、特にEUは前年比2千万ト増産を背景に <b>輸出量5百万ト増加</b> 、33百万トと18%増加し全体を牽引している。価格は供給が潤沢の為一時4ドル台迄下げたが <b>米中協議進展</b> を受け <b>5ドル台</b> を回復。			

### 3. とうもろこし

① 生産量：	1,286百万ト (前年比4.5%)	増↑	、前月比0.0%	⇒
② 消費量：	1,297百万ト (前年比3.3%)	増↑	、前月比0.6%	増↑
③ 輸出量：	203百万ト (前年比7.9%)	増↑	、前月比0.9%	増↑
④ 在庫量：	281百万ト (前年比3.5%)	減↓	、前月比0.0%	⇒
⑤ 価格：	<b>\$4.27/Bu</b> (前年\$4.15/Bu / 9月\$3.99/Bu) と9月比 <b>\$0.28</b> 上昇。			
⑥ 概況：	世界生産量は、約 <b>12.9億ト</b> と前年比約 <b>7千万ト</b> の大幅増見通し。特に世界最大の生産国 <b>米国</b> は前年 <b>3.8⇒4.3億ト</b> と約 <b>5千万ト</b> の大増産となった。消費量は米国/中国/メキシコ等でエタノール/飼料用需要等が増加し約13億トまで増加。輸出量は米国/ARG等が好調で前年より約1千万ト増で <b>2億ト超える見通し</b> 。価格は <b>米中貿易協議進展</b> への期待感から4ドル台半ば近くで推移している。			

### 4. 大豆

① 生産量：	422百万ト (前年比1.3%)	減↓	、前月比1.0%	減↓
② 消費量：	422百万ト (前年比2.1%)	増↑	、前月比0.6%	減↓
③ 輸出量：	188百万ト (前年比1.6%)	増↑	、前月比0.1%	増↑
④ 在庫量：	122百万ト (前年比1.1%)	減↓	、前月比1.6%	減↓
⑤ 価格：	<b>\$11.02/Bu</b> (前年\$9.83/Bu / 9月\$10.07/Bu) と9月比 <b>\$0.95</b> 上昇。			
⑥ 概況：	大豆生産量は、米国で単収が下がった事などから9月から下方修正された。また前年比でも数百万トの微減となる見通しであるがブラジルが堅調であり <b>4.2億ト台は確保</b> 。消費量は中国が1.3億トと好調であり全体の生産量増加に追いついている。輸出量は前年より約3百万ト増の見通し。価格は <b>米中貿易協議による中国の米国産大豆輸入再開</b> を受け前月より1ドル上昇、 <b>11ドル台</b> を付けた。			

# 世界の穀物・大豆等の需給

2025年11月14日  
米農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2023/24	2,824	3,617	515	2,819	797		
	2024/25	2,853	3,651	499	2,880	770		
	2025/26	9月	2,930	3,694	522	2,933	761	
	2025/26	11月	2,946	3,716	527	2,947	769	
	2023/24		792	1,067	222	796	271	
小麦	2024/25		801	1,072	210	810	261	
	2025/26	9月	816	1,079	215	815	264	
	2025/26	11月	829	1,090	217	819	271	
	2023/24		1,508	1,846	236	1,499	347	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2024/25		1,512	1,859	228	1,538	321	
	2025/26	9月	1,573	1,886	245	1,576	310	
	2025/26	11月	1,576	1,897	247	1,586	311	
	2023/24		523	704	57	525	179	
米	2024/25		541	720	61	532	188	
	2025/26	9月	541	729	62	542	187	
	2025/26	11月	541	729	63	542	187	
	2023/24		396	498	178	383	115	
大豆	2024/25		427	542	185	419	123	
	2025/26	9月	426	549	188	424	124	
	2025/26	11月	422	545	188	422	122	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	284.18	1,286.58	193.20	1,289.36	201.71	281.40
	11月	291.66	1,286.23	191.12	1,296.54	203.47	281.34
アメリカ	9月	33.66	427.11	0.64	332.25	75.57	53.58
	11月	38.91	425.53	0.64	332.25	78.11	54.71
アルゼンチン	9月	2.78	53.00	0.01	15.60	37.00	3.19
	11月	4.58	53.00	0.01	16.40	37.00	4.19
ブラジル	9月	8.83	131.00	1.60	95.00	43.00	3.43
	11月	10.43	131.00	1.60	96.50	43.00	3.53
EU	9月	6.28	55.30	23.00	76.90	1.80	5.88
	11月	6.19	55.75	21.00	75.30	1.80	5.84
日本	9月	1.27	0.02	15.50	15.50	0.00	1.29
	11月	1.37	0.02	15.50	15.50	0.00	1.39
中国	9月	193.09	295.00	10.00	321.00	0.02	177.07
	11月	191.93	295.00	8.00	321.00	0.02	173.91
ロシア	9月	0.91	14.10	0.05	11.10	3.00	0.96
	11月	0.91	14.10	0.05	11.10	3.00	0.96
ウクライナ	9月	1.06	32.00	0.01	6.43	25.50	1.15
	11月	1.04	32.00	0.01	7.00	24.50	1.55

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	123.58	425.87	186.21	423.89	187.78	123.99
	11月	123.34	421.75	186.41	421.54	187.97	121.99
アメリカ	9月	8.98	117.05	0.54	72.54	45.86	8.17
	11月	8.61	115.75	0.54	72.53	44.50	7.89
アルゼンチン	9月	24.05	48.50	7.20	49.90	6.00	23.85
	11月	23.10	48.50	7.70	48.20	8.25	22.85
ブラジル	9月	36.21	175.00	0.35	62.30	112.00	37.26
	11月	36.81	175.00	0.35	63.30	112.50	36.36
中国	9月	43.48	21.00	112.00	133.00	0.10	43.38
	11月	44.49	21.00	112.00	133.00	0.10	44.39
EU	9月	1.88	2.77	14.30	16.82	0.30	1.83
	11月	1.54	2.79	14.30	16.82	0.30	1.51

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	262.42	816.20	210.56	814.56	214.72	264.06
	11月	261.44	828.89	212.92	818.90	217.21	271.43
アメリカ	9月	23.15	52.45	3.27	31.41	24.49	22.96
	11月	23.15	54.01	3.27	31.41	24.49	24.52
アルゼンチン	9月	4.94	19.50	0.01	7.30	13.00	4.15
	11月	3.41	22.00	0.01	7.40	14.00	4.02
オーストラリア	9月	4.25	34.50	0.23	8.70	25.00	5.28
	11月	4.46	36.00	0.23	9.10	26.00	5.59
カナダ	9月	4.11	36.00	0.60	9.35	27.00	4.36
	11月	4.11	37.00	0.60	9.35	27.00	5.36
EU	9月	11.69	140.10	5.50	113.00	32.50	11.79
	11月	11.71	142.30	5.50	113.50	33.00	13.01
中国	9月	127.78	140.00	6.00	148.00	1.00	124.78
	11月	127.78	140.00	6.00	148.00	1.00	124.78
インド	9月	12.00	117.51	0.25	112.51	0.25	17.00
	11月	12.00	117.51	0.25	112.51	0.25	17.00
ロシア	9月	10.59	85.00	0.30	39.70	45.00	11.19
	11月	10.59	86.50	0.30	41.20	44.00	12.19
ウクライナ	9月	0.93	23.00	0.10	7.10	15.00	1.93
	11月	0.93	23.00	0.10	7.10	15.00	1.93

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。  
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

# 世界の穀物輸出を牽引するとうもろこし生産拡大と食肉需要の動向(11)

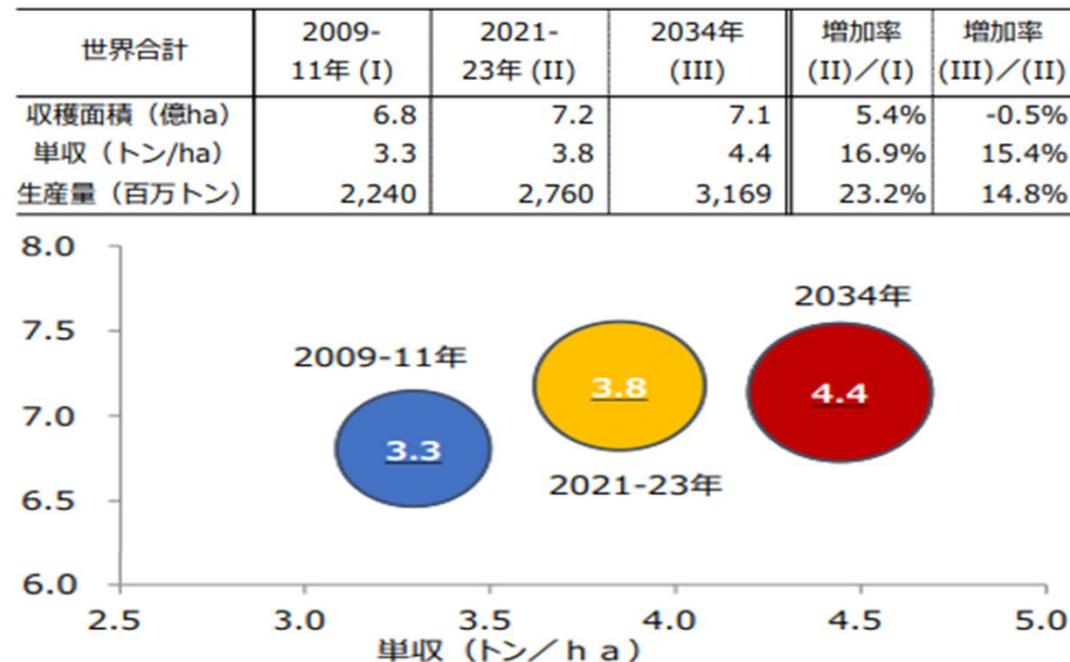
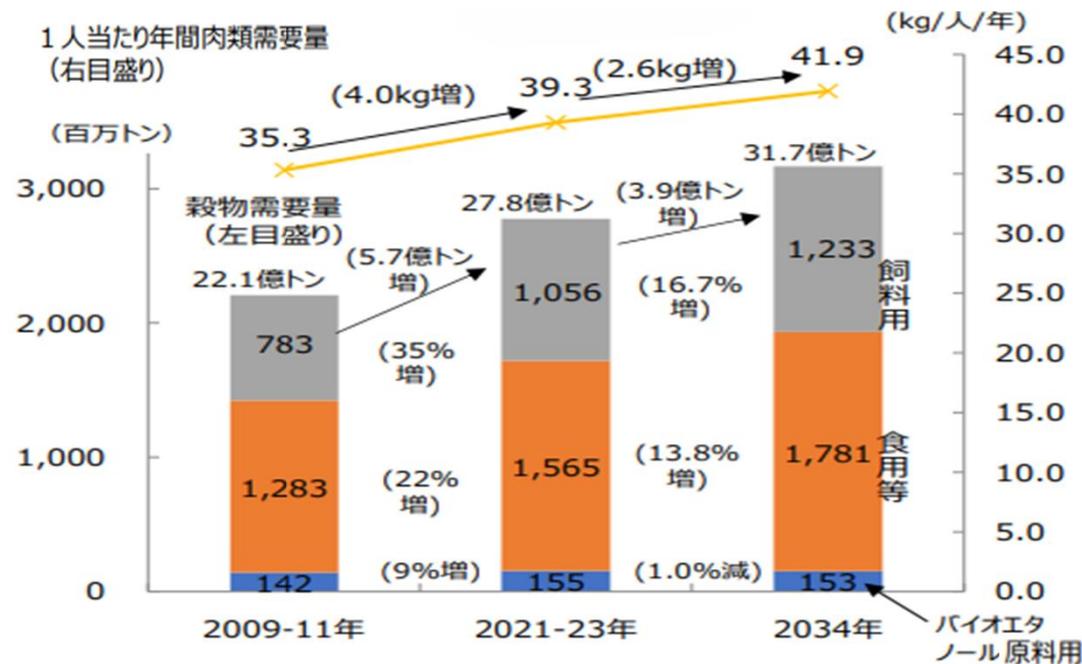
① 2034年に向けての穀物消費量と肉類消費量は伸びは鈍化しながらも増加する見通し…下記[表1]は農水政策研究所が2009-11/21-23をベースにしたおよそ10年後の2034年の用途別穀物消費量と一人当たり年間肉類消費量見通しを試算したものであるが、総体的には主要国における経済成長の鈍化/中国の人口減少見通しなどマイナス要因はあるが、先月号でも示した様にアジア/アフリカを中心に新興国や開発途上国における所得向上による**肉類消費量の拡大に伴う飼料用需要の増加**、併せて**総人口増加に伴う穀物の食用需要増**も見込まれることから、2034年には穀物全体の消費量は前期21-23比27.8⇒31.7億トンを拡大する見通しである。但し、その前期比伸び率は飼料用が16.7%、食用が13.8%と09-11年**比伸び率に比べ鈍化する**見通しである。

② 世界の配合飼料生産量は年約14億トンまで拡大、穀物消費量に対する使用率は約4割に迫る…Alltech社調査によれば2024年世界配合飼料生産量は13.96億トンとなり21年の12.35億トン比13%増と年々拡大している。同年の穀物生産量は28.5億トン/大豆は4.2億トン。この大豆から発生する飼料用大豆粕は2.9億とみられ逆算すれば**配合飼料への穀物使用量は14-2.9=11.1億トン**、穀物使用比率は $11.1 \div 28.5 \text{億トン} = 39\%$ と約4割に迫る。また、大豆も含めた全穀物に対する配合飼料使用比率は**約43%**(14÷32.7億トン)と高まる。同年の畜種別配合飼料生産比率は、①**ブロイラー30%** ②養豚27% ③採卵鶏14% ④乳牛12% ⑤肉牛10% 以下、水産4% ペット3%となっている。また、23年FAO調査の3大食肉生産量は、①**ブロイラー1.45億トン** ②豚肉1.25億トン ③牛肉0.77億トン 計3.47億トン。特にブロイラーは豚肉を追い越して**食肉生産量トップ**に躍り出た。低コストと健康志向から**この傾向は続く**と思われる。

③ 穀物生産量は収穫面積がやや減少する中で単収増によって増加する見通し…[表2]は穀物の生産量/単収/収穫面積を年次毎に整理したものである。2034年に向かって収穫面積は7.2⇒7.1億haとほとんど変わりはないが、**単収が4.4トン/haまで増加**することによって全体生産量が押し上げられるという見通しである。この要因について研究所は具体的例示は無いが、気候変動によるリスクはあるものの**アジア/南米等における機械化の進展**や農業技術の進化/**ロシア等高緯度地域における温暖化の進展/GMO種子**などの利用拡大/**高単収とうもろこし**(米国11トン/ha)の生産拡大等が挙げられる。(続く)

[表1] 用途別穀物消費量と1人当たり年間肉類消費量(世界合計)

[表2] 穀物の生産量、単収、収穫面積(世界合計)



資料：2034年における世界の食料需給見通し 注：数字は単収(トン/ha)、円の大きさが生産量